

2024 年度 事業報告書

(自 2024 年 4 月 1 日 至 2025 年 3 月 31 日)

一般社団法人日本造血細胞移植データセンター

愛知県長久手市岩作雁又 1 番地 1 愛知医科大学内

はじめに

本法人は、造血細胞移植および細胞治療を受けた患者並びに造血細胞を提供したドナーの福利に資するために、その情報を収集・集計・解析することにより治療成績および安全性の向上を図るとともに、広く造血細胞移植および細胞治療の研究、教育および診療の向上を図ることを目的としている。

以下のとおり事業を実施した。

1. 第一部門

○造血幹細胞移植患者・ドナー情報登録支援業務

登録事業（造血細胞移植医療の全国調査（以下、全国調査）：基本解析、ドナーフォローアップ、患者や市民向け情報提供、データ提供）を引き続き次の通り実施した。

- 造血幹細胞移植（以下、移植）実施施設（2024年10月24日時点で成人診療科 251 施設、小児診療科 87 施設）を対象とし、移植患者・ドナー情報登録を実施。また、施設責任者、入力担当者や連絡先を含む施設情報の更新を一斉確認は年に1回、その他必要に応じて適時行い、施設情報管理を実施した。
 - ① 前年に実施された移植の患者およびドナーに関する情報の新規登録。
 - ② 前年までに登録された移植の患者およびドナーに関する情報に関しては生存患者における生存状況、疾患状況および晩期合併症状況の更新を実施。非血縁者間移植に関しては、移植後100日時点での情報収集も実施。血縁者間移植のドナー安全性情報に関しては別途ドナー単位で収集。
 - ③ 患者およびドナーに関する情報の収集は、造血細胞移植登録一元管理プログラム（TRUMP®, Transplant Registry Unified Management Program）を用いて実施し、必須情報が入力されていない、あるいは不整合のある情報に関しては施設への問い合わせと確認、修正の上再提出を依頼。全ての施設のデータを統合し、重複登録の確認を含むデータクリーニング後、解析用のデータセットを固定。
 - ④ この固定データセットを用いて基本集計・解析を実施。移植施設向けの基本生存解析に加え、患者説明用・市民向け情報提供用に解析結果の加工・編集を実施。報告書本書およびスライド集（日本語版・英語版）として発行。
 - ⑤ 本業務で収集されたデータを用いて研究され公開された論文

情報を整理し、検索が可能な論文紹介プログラムを用いて市民・研究者向けに本法人ウェブサイトにて公開を継続。

⑥ その他：

- ・ データの信頼性に関して **TRUMP** の検証作業に着手した。
- ・ システムおよび調査運用の改善計画並びに予算獲得に係る計画作成に着手した。
- ・ 年次データクリーニング計画を策定し、実施した。
- ・ 2025 年 2 月 27 日～3 月 1 日 第 47 回 日本造血・免疫細胞療法学会総会（於：大阪府大阪市）で、**JDCHCT/全国調査**ニュースおよび本業務周知を目的としたブースを出展。

○移植片対宿主病（GVHD, Graft-Versus-Host Disease）に係る登録業務（GVHD レジストリ／GVHD Registry）

TRUMP に登録された症例に関して、同種造血細胞移植の重要な合併症である GVHD に関する治療を含む詳細情報を収集した。

○非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植検体保存事業関連業務

検体利用申請の管理・審査を実施した。

2. 第二部門

○全国調査データを利用した研究事業

研究者管理、研究進捗管理、業績管理、研究デザイン考案、データマニピュレーション・統計解析支援を昨年度に引き続き実施した。

- ・ 二次調査を伴う臨床研究の実施。（順不同）

※研究者の所属は、研究申請時点もしくは本法人ウェブサイトでの研究情報公開時点の情報である。

I. 乳癌/卵巣癌既往がある AML・ALL・MDS 患者における同種移植成績および移植後の HBOC 関連癌再発/発症リスクに関する検討

（研究申請者 国立がん研究センター中央病院/京都大学医学部附属病院 渡邊瑞希）

II. 同種移植後に発症するフサリウム症の臨床的特徴と予後予測因子

（研究申請者 自治医科大学附属さいたま医療センター 血液科 木村俊一）

III. 劇症型再生不良性貧血に対する同種造血幹細胞移植

(研究申請者 山口大学医学部附属病院 第三内科・輸血部
中邑幸伸)

IV. 同種造血幹細胞移植後の非感染性脳炎・脳症に関する研究

(研究申請者 大阪公立大学 血液腫瘍制御学 仲子聡一郎)

V. 移植登録一元管理プログラムおよび二次調査を用いた小児造血
細胞移植における類洞閉塞症候群の予防・診断・治療に関する
後方視的解析

(研究申請者 国立成育医療研究センター 小児がんセンター
移植・細胞治療科 坂口大俊)

VI. 同種造血幹細胞移植後の類洞閉塞症候群に対する Defibrotide の
有効性・安全性の検討

(研究申請者 北海道大学病院 血液内科 豊嶋崇徳)

○前方視的臨床研究の実施と支援

支援として、研究計画書のレビュー、調査票の作成、入力システムの
構築、症例の登録・進捗管理、データ管理、問い合わせ、中央モニタリ
ングを実施した。

○非血縁者間骨髄・末梢血幹細胞移植検体保存事業関連業務

研究者からの検体利用申請受付。尚、本法人が所有する検体の保管お
よび研究者への分譲は検体保管施設である東海大学（実施責任者：医学
部 鬼塚真仁）に委託した。

- 分譲を行った研究（順不同）

- I. ゲノムのメチル化状態計測による年齢推定法の開発

- (研究申請者 東海大学 医学部基礎医学系分子生命科学 今西
規)

○細胞治療に係る登録業務（細胞治療レジストリ／Cellular Therapy
Registry）

- 細胞治療実施施設（2024年11月21日時点で113診療科）を対
象とし、細胞治療に関する情報を収集した。
- 細胞治療に関する情報は、細胞治療製品輸注前情報、製品輸注情
報、輸注後情報を収集し、輸注後情報に関して、輸注後3か月、6
か月、1年以降年次での情報を収集した。
- 細胞治療の実施件数について全国調査報告書およびスライド集
（日本語版・英語版）を発行した。

- 研究用のデータセットを配布した。
- 製薬企業からの製造販売後データベース調査業務を受託し、データを提供した。
 - I. キムリア®点滴静注（ノバルティスファーマ株式会社）
 - II. イエスカルタ®点滴静注（ギリアド・サイエンシズ株式会社）
 - III. ブレヤンジ®静注（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社）
 - IV. アベクマ®点滴静注（ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社）
- 産学（JSTCT/JDCHCT）が連携・協働して、課題の提起と解決に向けた検討・情報共有を行う場である、**Cellular Therapy Registry Consortium** でテーマごと（1.入力促進/転院の取り扱い、2.データの信頼性、3.パブリケーション）に、より詰めた議論を継続した。
- **Center for International Blood and Marrow Transplant Research (CIBMTR)** と国際共同研究を実施するため、データ利用方法についての協議を継続した。
- 業務委託契約により **CIBMTR** が保有する **FormsNet** を日本語化し、日本における細胞治療のデータ収集システムとして使用していたが、その国内内製化のための新たなシステム開発に着手した。
-

○GVHD レジストリ／GVHD Registry で収集されたデータの利用

- 製薬企業からの製造販売後データベース調査業務を受託した。
 - I. イムブルビカ®カプセル 140mg（ヤンセンファーマ株式会社）
 - II. ジャカビ®錠及びジャカビ®内用液小児用（ノバルティスファーマ株式会社）

○再生医療等製品患者登録システムとしての役割

再生医療等製品の市販後の使用状況や患者予後等のデータを収集し、迅速な安全対策や新たな製品開発等を通して、医療の向上に役立てることを目的として日本医学学会が行う、「再生医療等製品患者登録システム」の役割として使用実績を集計し、本法人ウェブサイト公開した。

- テムセル®HS 注（JCR ファーマ株式会社）

○産学協同研究（JSTCT／JDCHCT 産学協同研究推進協議会）

日本造血・免疫細胞療学会（JSTCT）／JDCHCT 産学協同研究推進協議会を基盤に複数の産学協同研究を進行させた。

○国際協力および国際共同研究

- Asia Pacific Blood and Marrow Transplantation Group (APBMT)、CIBMTR、European Society for Blood and Marrow Transplantation (EBMT)、Worldwide Network for Blood and Marrow Transplantation (WBMT) との連携を可能とするために基本的な調査項目やその定義を合わせ、定期的に会議に参加した。
- 全国調査から移植件数を集計し、APBMT および APBMT を通じて WBMT に報告し、世界規模の移植件数集計に参加した。APBMT が定義する最少必須項目情報を APBMT に提出した。
- EBMT および CIBMTR との Cellular Therapy Registry に係る連携を継続して行った。
- Council for International Organizations of Medical Sciences (CIOMS) Working Group XIII－Real-World Data and Real-World Evidence in Regulatory Decision Making に参加した。

○公的研究費を受領および研究参画（順不同）

- 継続課題
 - I. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（革新的がん医療実用化研究事業）

「PDX 治療モデルと継時的臨床検体の統合的マルチオミックス解析に基づく急性骨髄性白血病の分子層別化と難治性クローン克服に向けた治療戦略の構築に関する研究」
（研究代表者：清井仁、研究分担者：熱田由子）（公的研究費受領）
 - II. 厚生労働科学研究費補助金（移植医療基盤整備研究事業）

「効率的でドナーの負担軽減に資する末梢血幹細胞採取法の確立と非血縁者間末梢血幹細胞移植の治療成績向上のための研究」
（研究代表者：矢野真吾、研究分担者：熱田由子）（公的研究費受領）
 - III. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構（予防・健康づくりの社会実装に向けた研究開発基盤整備事業）

「造血幹細胞移植後患者における、ウェアラブルデバイスとモ

バイルアプリケーションを用いた移植合併症予測支援システムの開発と外来フォローアップ体制の構築」

(研究代表者：岡村浩史、研究分担者：熱田由子)(公的研究費受領)

- 新規採択/参画課題

IV. 国立研究開発法人日本医療研究開発機構(移植医療技術開発研究事業)

「同種造血幹細胞移植における微小残存病変評価と GVHD 予測のためのバイオマーカーの開発/検証、および多階層データの統合解析による予後予測法の確立」

(研究代表者：諫田淳也、研究分担者：熱田由子)(公的研究費受領)

V. 厚生労働省(クリニカル・イノベーション・ネットワーク推進支援事業)

「造血細胞移植・細胞治療レジストリを基盤とした、CAR-T レジストリデータベースの適応性と汎用性向上を目指したアップグレード」

(研究代表者：熱田由子)

*公的研究費ではなく、補助事業である。公募であることから競争的資金として本章に記載する

3. その他、本法人の運営に必要な施策

○愛知医科大学医学部 造血細胞移植・細胞治療情報管理学連携講座

特別研究学生 1 名の教育活動ならびに研究活動を継続した。

○全国調査 研究協力費精算制度

細胞治療レジストリに登録されたデータを対象に、研究協力費精算の活動を継続した。